# 各拠点病院が取り組んでいるがん対策（2026年度） **那覇市立病院**

## 1.がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLVー 1)

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・ LBC（液状化細胞診）機器導入により、ほとんどすべての臓器や検体に応用出来ることで、従来法と併用した作製となり、細胞診断精度向上が見込まれる。
・当院受診者のC型肝炎ウイルス抗体の陽性結果を全例で消化器内科に報告することでスクリーニングを行い、未治療の感染者に肝炎治療を行うことで将来的な肝臓がんの予防に努める。

## 2.がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・ LBC（液状化細胞診）機器導入により、健診も含めた婦人科領域のHPV検査ヘラインが確立され、HPV検査数の増加および 細胞診断精度の向上につながる。加えて、鏡検時間の短縮により、検診細胞診の受診件数促進に寄与できる。

## 3.がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・ がんゲノム医療連携病院申請と取得、院内および南部医療圏の医療機関とのがんゲノム医療連携体制の拡充　6/1～がんゲノム医療連携病院指定、運用開始　7月～出検開始、院外紹介受け入れ準備中
・ 遺伝性腫瘍・ゲノム診療の院内周知、相談支援体制の拡充、院外への広報活動
・ がんゲノム医療連携病院取得に向けて、病理検査室の環境整備
・ True　Beam、HALCYON2台稼働による治療体制の強化、患者数の拡大を図る　～9月現在、照射患者数300人
・予定手術患者への術前栄養改善を強化するために運用体制を構築し個別面談で実施している
・CAPOX術後補助療法におけるクリニカルパスにて初回に栄養指導を設置し実施している。
・病理医が2名となっており、保険収載上（病理診断管理加算2）を遂行することにより、病理診断精度向上が確立する。
・自動免疫染色機器を導入したことにより、施設内での免疫染色項目が増加し、より迅速で精度の高い病理診断が実施出来る。
・薬剤師による診察前診断により医師の負担軽減と診察の効率化・安全性の向上を図る

## 4.緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・妊孕性温存療法の情報提供・連携の強化
・苦痛のｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞを確実に実施、電子カルテシステムなどを活用しタイムリーに介入できる。医療情報部門などと連携しスクリーニング対象者を電カルシステムでピックアップする取り組み中
・早期から介入が必要な対象をスクリーニグするために病棟および外来ラウンド行い情報の集約を行い、入院・外来と切れ目ない緩和ケア提供体制を整備。苦痛のスクリーニング陽性の対象部署へ情報提供、早期介入検討
・緩和ケアに関する研修を開催する（2回/年）今年度はACP、高齢者がん患者の支援の研修を計画

## 5.個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

**・希少がん：**専門医療機関への「紹介先一覧・紹介フロー」を作成
**・難治性がんに対する多職種キャンサーボード**（①膵がん等を対象に、早期発見・診断から治療、緩和ケアまでの院内診療フローを整備する。②膵がんの高リスク者・疑い患者の紹介基準を作成し、地域医療機関へ周知する。③肝胆膵領域を中心に多職種キャンサーボードを定期開催し、必要に応じ全がん種へ拡大する。④診断時からがん相談支援・緩和ケアにつなぐ仕組みを構築する）
**・AYA世代のがん：**アピアランスケア・妊孕性・就労等に関する相談支援体制の整備
**・高齢者のがん**（①高齢がん患者について、高齢者機能評価（G8等）の活用を検討する　②治療継続が困難な症例等を多職種カンファレンスで検討する）
**・離島・へき地**：抗がん剤副作用対応等の連携方法の整備

## 6.共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア
⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・対面相談、電話相談、オンライン相談などの相談対応の継続
・院内職員への広報と周知
・診断から治療開始前までにがん相談支援センターを案内するシステム、マニュアル整備

## 7.基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進
⑤患者・市民参画の推進

2026年度に重点的に取り組んでいるがん対策

・ がんフォーラム（①市民対象：がん医療、②企業・事業所対象：就労・両立支援）継続開催と参加者増加に向けた広報
・ 患者サロン、多発性骨髄腫患者会の継続開催・運営の支援　2026年度より患者サロンの開催時間延長　・ 当院の膵ぞうWG主体の活動を市民や県民へ大きくPRする